

## 巻頭のあいさつ

学 長 上 田 祖 峯

駒沢学園の建学精神は道元禅師の禅の精神である。智慧と慈悲を教える仏教、特に、禅の精神が学園教育の根底に流れていなければならない。教育目標は行学一体の人格完成である。智慧豊かで、慈悲心に満たされ、実践的人材を育成することが学園の教育的使命である。「一切衆生悉有仏性」は仏教思想の根本であり、禅の根本思想である。教育は、本来、先天的にそなわっている人間の無限の可能性を引き出し育てる営みである。人間は悉く仏性（心）を本質的に持っている。その仏性（心）をみがき、自覚することによって、知情意の円満な人格を育成することが学園教育の理念である。これをふまえて、学校課程や専門教育に適応する研究教育活動を展開してきた。

周知の通り、日本の大学教育は年を逐うて、大衆化と多様化の方向に進みつつある。このような社会的背景の中にあって、短期大学の果す機能も、解決を迫られている諸問題を内包しながら、専門教育、さらに生涯教育の観点から、時代の要請にこたえる教育内容の充実が望まれている。必然的に学術研究の重要性が叫ばれる所以である。本学では、年次的に、研究紀要を発行してきた。本年、本学の母体である駒沢学園が創立五十周年を迎えるに当って、第十一号を記念号として発刊し、いささか、学園教育の充実発展に意義あらしめようと意図した。各位の理解と研鑽努力によって、それにふさわしい研究成果を挙げ、これを公にすることは欣幸にたえない。執筆者、編集委員に深甚なる敬意と感謝を捧げる次第である。